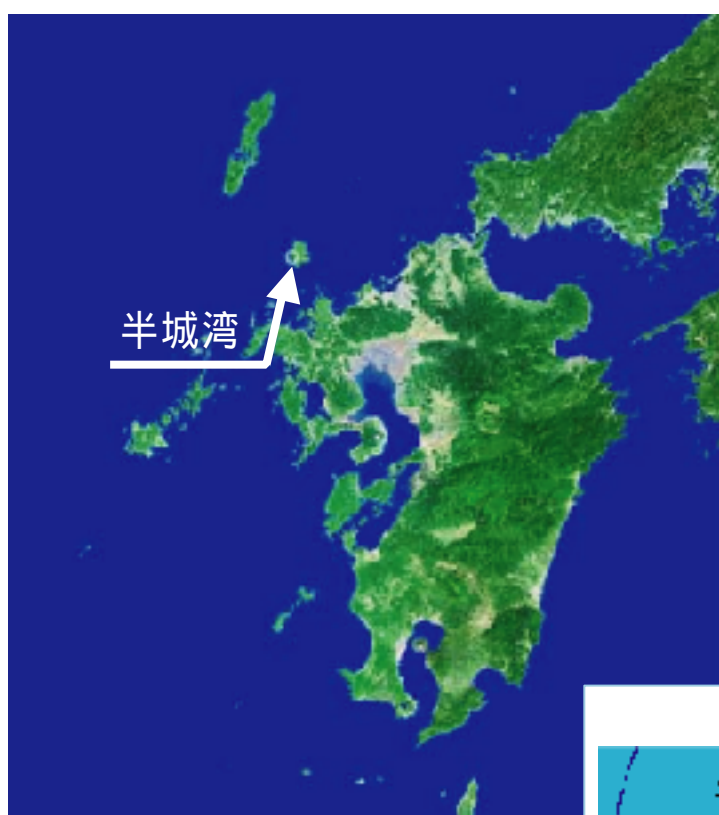


## 海域の概要

本湾は、半島を隔てて郷ノ浦の北側に存在する湾で、三方を山に囲まれ、西部が外海に開いています。湾内では真珠やカキの養殖が行われています。



## Specification

### 諸元

湾口幅：2.34 km

面積：8.97 km<sup>2</sup>

湾内最大水深：2.5m

湾口最大水深：2.5m

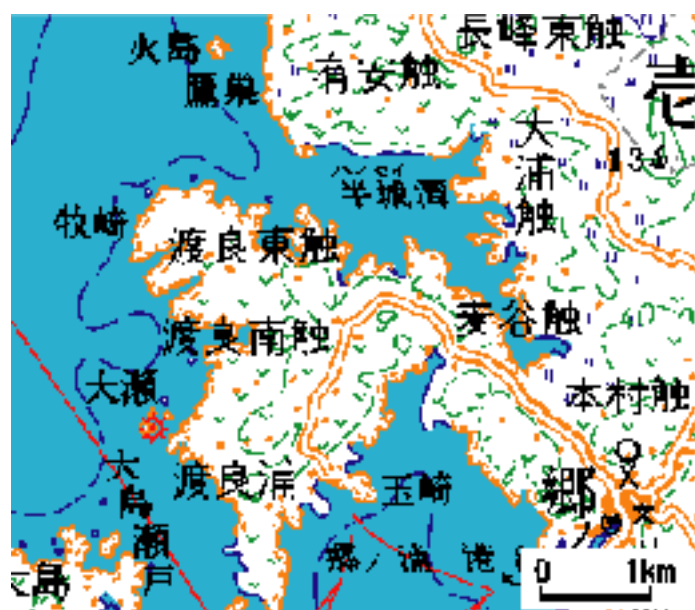
閉鎖度指標：1.28

備考：環境基準類型指定水域

## Location

### 範囲または位置

長崎県壱岐郡郷ノ浦町鷹ノ巣と同町佐々連石を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



## 環境

壱岐の西岸に位置し湾口を対馬海峡に開いている湾で、北東に流れる対馬暖流の勢力下にあります。気候は太平洋岸気候区に属し、対馬暖流の影響を受けて比較的温暖ですが、冬季は大陸からの北西季節風が強くなります。

湾岸には、大きな集落や街もなく、流入河川もないことから、全般に水質は良好です。

## 自然

半城湾は、屈曲の激しい岩礁性の海岸線を持つ湾で、壱岐・対馬国定公園に指定される景勝地です。湾口の先端には、主な景勝地である鬼の足跡がみられます。鬼の足跡とは、直径 110m 程の大きな穴で、その昔、鬼が壱岐をまたいでクジラをすくった時に出来たものといわれています。

半城湾の北側には猿岩、黒崎砲台跡の名所があります。黒崎砲台は、対馬海峡を航行する艦船を攻撃する要塞砲として、玄海をすべてその射程内においたほどの破壊力と東洋一の長い射程距離をもっていました。

湾口付近の岩礁には、ホンダワラ類やアラメを主体とする藻場が分布しています。



鬼の足跡

## 文化歴史

「魏志倭人伝」に登場する壱岐には、弥生・古墳時代の遺跡が多く、長崎県古墳の半分を占めています。大陸の接点であった壱岐は、元寇等の外敵の侵入を何度も受けました。1570年以降、平戸へのアワビ・ナマコ・フカヒレの出荷と捕鯨により急速に発展しました。

1859年に出漁した漁師が初春の南風に会い、遭難がおこりました。これが「春一番」の発祥です。

## 産業

郷ノ浦町の漁獲物は、イカ・ブリ等の回遊魚が主体でしたが、外国漁船との漁場競合、磯焼けによる藻場の減少等により漁獲量は減少傾向にあります。そこで、アワビ種苗センターを整備し養殖漁業へ転換を図っています。

郷ノ浦の農業の基幹作目は、水稻、肉用牛、葉タバコ、施設園芸です。



郷ノ浦港の漁船